



今年秋のプログラム案内

●第5回からふるカフェ●

～サマーパーティ～

日 時◇8月30日(日) 午後4時～6時

会 場◇AOZアオウゼ(JR福島駅東口)和室

参加費◇300円(お茶菓子代)

*事前に、EIWANのメールかフェイスブックに申し込んでください

●福島サロン・日本語教室●

日 時◇9月3日・10日・17日(木曜日) / 午前10時～12時

会 場◇EIWAN ふくしま活動スペース

参加費◇無料

*事前に、EIWANのメールか電話に申し込んでください

●白河サロン・日本語教室●

日 時◇9月は日曜日に2回/午後2時～4時

会 場◇マイタウン白河(白河駅から徒歩4分)

参加費◇無料

*事前に、EIWANのメールか電話で申し込んでください

●子どもキャンプ●

共 催◇EIWAN / つばさ一日中 HALF 支援会

日 時◇9月12日(土) 午後2時

～13日(日) 午前11時

場 所◇高篠山公園(郡山市逢瀬多田野)

参加費◇1,000円(高校生以上) *子どもは無料

定 員◇40人

*つばさ tubasarizhonghalf@yahoo.co.jp に、早めに申し込んでください

●子ども日本語教室/学習支援教室●

主 催◇蓬莱日本語教室

日 時◇9月4日・11日・18日・25日

(毎週金曜日) / 午後3時～7時

会 場◇EIWAN ふくしま活動スペース

参加費◇小学生は1回200円 /

中学生以上は1回500円

参加できる人◇外国にルーツをもつ小学生・

中学生・高校生

申し込み・問い合わせ◇蓬莱日本語教室

電話: 090-6233-1910 (くさかべ)

メール: ultramandina0504@ezweb.ne.jp

福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN)

〒960-8055 福島市野田町2-3-2 神野ビル3F東(JR福島駅西口から徒歩7分)

電話 080-8215-1556 メール eiwan311@gmail.com

ホームページ <http://gaikikyo.jp/shinsai/eiwan>

フェイスブック <https://www.facebook.com/eiwanfukushima>



福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN)

Empowerment of Immigrant Women Affiliated Network

◆発行◆2015年7月11日(隔月刊)

第9号

●外国につながる移住女性と地元市民の出会いと交流●

月1回、「からふるカフェ」始めました



EIWANでは、今年4月から「からふるカフェ」と題して、月1回の集まりを開いている。

「カフェ」の目的は、地域の人びとが移住女性たちと出会い、移住女性たちも地域の人びとに出会い、お互いの存在を理解し合うことにある。フォーマルな形式で講演を聞いたり勉強会を開いたりするのではなく、気楽にお茶会をするような雰囲気でお互いの違いや共通点を共有できる場づくりを目指している。

7月現在で、第4回まで開催した。福島県国際交流協会にご紹介いただき、毎回1名の移住女性をゲストスピーカーとして迎え、今までの体験談を語っていただいている。第1回目のゲストは韓国、第2回目は中国、第3回目はフィリピン、第4回目はブラジル出身の、いずれも一生懸命生きてきた女性たちだ。

参加者は毎回10～30名だが、みな国籍も職業

も年齢も異なる福島の人びとである。

このカフェがどのように地域に貢献できるのか、現時点ではまだ模索段階ではある。それでもある回のこと、10代の参加者が、「[移住者に対して]日本人と同じことを押し付けるのは、ひどいことだと思った」と、カフェに参加した感想を語ってくれた。また移住女性の参加者は、「いろいろな国から来ている人たちと知り合いになり、同じ悩みや体験を聞いたり話したりできた」と語ってくれた。

カフェの企画はまだ手探り状態だが、参加者が安心して自分のことを語り、お互いの存在とその多様性を認め合える空間を作るという点だけには変えることなく続けていきたいと考えている。

●土田久美子 (EIWAN 運営委員)

第1回からふるカフェ 「多文化共生ってどんなこと？」



4月19日、第1回目の「からふるカフェ」をEIWAN Fukushima活動スペースで開いた。テーマは「多文化共生ってどんなこと?」。中国、韓国、フィリピン、日本など、異なる文化的背景を持つ20名近くが参加してくれた。ゲストスピーカーは韓国出身の大内京子さん。

大内さんお手製のおいしい「キンパ」をいただきながら、大内さんのこれまでの経験談をうかがった。福島に住んで約30年のいろいろな経験——日本人との付き合い、職場、子育てなど——を、親しみやすい雰囲気のなかで語ってくれた。

参加した皆さんからは、とくに子育てについての悩みや経験が語られた。「みんな同じ悩みを持ちながら頑張っているお話だったので、元気づけられました」という感想や、「私と同じ国出身の人と会えたことが嬉しかった。今後もカフェへの参加を通していろいろと学びたい」というコメントをいただいた。

実際に、子どもとのコミュニケーションや、家庭内で使う言語についての悩みや不安は、今回参加した皆さんに共通するトピックとなった。子育てや継承語教育について、また地域との関わりについてなど、今後もみなさんといろいろなお話を共有する場として、カフェを作り上げていきたいと思う。

第2回からふるカフェ 「つながるために必要なこと」



第1回目のカフェで「多文化共生ってどんなこと?」というテーマで話し合い、最後に第2回で話し合いたいテーマとして決まったのが、「地域の中の外国人と日本人——つながるために必要なこと」であった。

5月9日、EIWAN Fukushima活動スペースで開かれた第2回からふるカフェのゲストスピーカーは、中国出身の後藤麗華さん。

後藤さんは18年前に日本人と結婚して来日した。夫は中国語が話せたので、最初はそれほど日本語の必要性を感じていなかったが、同居している夫の両親とコミュニケーションがとれず不安や心の壁を感じたことから、日本語を勉強しなければならないと強く思ったそうだ。そして、福島の日本語学校に半年通って一生懸命勉強し、夫の両親ともある程度交流ができるようになった。

その経験を通して、後藤さんは、地域で外国人と日本人がつながるためには、外国人も日本語や日本の文化を学んで理解すること、そして地域のために自分に何ができるかを考えて行動することが大切だと語ってくれた。

その後、後藤さんとお友だちの天海さんが作ってくれた肉まんやギョウザをいただきながら、参加者が1人ずつ自己紹介をしていった。日本のほか、中国、韓国、ベトナム、フィリピンにルーツを持つ方々が集まった、国際色豊かな楽しい会となった。

皆さんの話を聞いた後藤さんが、「このような会に参加できることに希望を感じています」と語ってくれ、このカフェを続けていく意義を改めて感じた。

郡山市で開催 第3回からふるカフェ



6月7日、第3回からふるカフェは、郡山バンケットルームで開催した。

約30名の方が、郡山市内や須賀川、白河から来てくれた。今回は、高校生も加わってくれたので、前回以上に出身も職業も年齢も、まさに「カラフル」となった。

今回のゲストスピーカーは、郡山市に住むフィリピン出身の高橋エレナさん。高橋さんは福島に20年以上住み、福島でいろいろな経験をしながら家庭を作ってきた。高橋さんは、福島に住み始めたときに、日本の家のなかでの女性の役割について感じた戸惑いや、子育て中に他の子どもの親との関係で経験した苦い思いを語ってくれた。

その後、高橋さんお手製のフィリピンのお菓子をいただきながら、参加者同士で経験や疑問を話し合った。参加したみなさんからは、次のような感想をいただいた。

たとえば、「外国出身のお母さんたちが、地域の人びとの対応によってどのような気持ちになるのか、わかりました」、「外国出身の方がたくさん住んでいるなかで、一つの文化を押し付けることはあまりよくないと感じました」という意見。

また外国にルーツを持つ参加者の方々からは、「自分の今までの経験を振り返るためのいいきっかけになりました」、「自分よりも先輩のお母さんのお話を聞いて力づけられました」という感想もいただいた。今後も「からふるカフェ」が、いろいろな経験を持つ地域のみなさんが集い、福島の多文化を見つめるきっかけとなることを願っている。

第4回からふるカフェ 多様な語り



7月11日、第4回からふるカフェをEIWAN 活動スペースで開いた。今回のゲストはブラジル出身の原田あやかさん。20年以上前から福島に住む日系三世の女性。来日の経緯や配偶者との出会い、お子さんが小さいときに体験した戸惑いや、ブラジルと福島にいる家族とのふれ合いなどを、楽しく話してくれた。

原田さんが作ってもってきてくれたのは、日本で呼ぶところの「ポンデケージョ」とカラフルなマリネサラダ。生ハムとチーズを添えて、参加者はブラジル産のコーヒーとマテ茶とともにいただいた。後半は、原田さんにブラジルの日系人のことを教えてもらったり、日本での生活や地域の人たちとの交流についてうかがった。

参加者の皆さんからは、文化の違いに由来する辛いことや戸惑いを、ポジティブな言葉で捉えることで生活を明るく送ろうとする原田さんの人生哲学に感銘を受けた、という感想をいただいた。

「移住者」、「移住女性」たちは、しばしば「日本や地域社会の課題」とのみ結びつけられがちである。私たちはそうした課題へ取り組み続けなければいけない一方で、人生についての「多様な語り」にも、目を向けなくてはと気付かされた。彼女の語りからたくさんのエネルギーをもらえた会となった。

